

オリンピックと食育 & オーガニックの親和性  
地方創生とフードビジョンの親和性

一般社団法人 オーガニックヴィレッジジャパン

「ORGANIC VISION」

編集長 山口タカ

1

VOL.  
オーガニックヴィジョン  
WINTER  
2016  
創刊号  
定価 ¥1,400 (税別)

# ORGANIC VISION

オーガニックを盛り上げるサークル、レポート、サポートする Think & Do Tank マガジン

**特集1**

五輪に  
オーガニック導入を  
提案しようと思ったらー  
むしろ五輪が、  
オーガニックを  
求めている!

**特集2** 検証  
マルシェは  
オーガニックの  
救世主と  
なりうるか?

**特集3**  
微生物に助け!  
土壌微生物多様性  
T-SOL Project

●巻頭レポート  
オーガニックへの挑戦  
兵庫県産同歩  
フナトシの有機栽培の志  
●インフォレポート  
オーガニックマシンの開発  
埼玉県比企郡小川町  
小川町アグリパーク

ORGANIC VILLAGE JAPAN/OU

オリンピックレガシーは  
オーガニック。

2

VOL.  
オーガニックヴィジョン  
SPRING  
2016  
第2号  
定価 ¥1,400 (税別)

# ORGANIC VISION

オーガニックを盛り上げるサークル、レポート、サポートする Think & Do Tank マガジン

**特集1**

オーガニックにも  
食育を学べ!  
監修中道  
食育×オーガニックを語る

**特集2**  
フードビジョンで  
見えておきたい  
7つのこと

**特集3**  
いよいよ  
レストランの  
オーガニック認証が  
スタート

**特集4**  
検証  
マルシェはオーガニックの  
救世主となりうるか? 検証  
●インフォ  
アメリカに比べて、  
オーガニックが拡大したか  
オーガニック・トレード協会 (OTA)  
モニック・マレス

ORGANIC VILLAGE JAPAN/OU

オリンピックレガシーは  
オーガニック。



# 特集1

## 五輪にオーガニック導入を 提案しようと思っただけ

# むしる五輪が オーガニックを 求めていた!

東京五輪とオーガニック  
2015年12月現在、この二つの単語を連ねられても  
ピンとくる人はほとんどいないだろう。  
しかし実は、2012年のロンドン五輪が、  
各自国においてオーガニックの存在を本まじりはじめたのだ。  
それは今年のリオ五輪にももちろん、東京五輪にも通ずる。  
そして日本のオーガニック市場は、  
そのニーズに応えられるかどうかが今後の課題となるはずだ。  
今回は、4年と7ヵ月、渡された時間は決して多くはない。

国立競技場問題は  
近年の五輪の建設費急増  
今年5月に噴出した、国  
立競技場の建設費問題。当  
初の予算を大幅に超え、  
2800億円という巨額な  
費用がかかるという試算が公  
表され、しかも予定されて

いた開閉式屋根と可動式客  
席の設置を先送りし、さら  
に2019年5月に完成時  
期が延期、今秋開催のラグビー  
W杯開催には、完成は間に  
合わないこととなった。  
これに対し、世間が大パツ  
キングを起したしたのは告知  
の通り、船本としてデザイン  
家は藤岡、先日の12月22日に  
最終計画が発表、ようやく新  
たなスタートを切った。  
こうした経緯の背景はさま  
ざまあるだろうが、少なくとも  
も言えるのは、現代五輪の流  
れとは明らかに逆流するプ  
ロセスであるということだ。  
その流れとは、2012  
年のロンドン五輪、そのメイ  
ンスタジアムの建設はもちろ  
ん、開催後の運営まで見てい  
くと、今回の日本の国立競技  
場設計の流れと明らかに異な  
ることがわかる。そしてその  
ロンドン五輪の根拠にあるの  
は、「オーガニック」と関係  
の深い、「持続可能性」の考  
え方であった。

写真/フォート・キンゼト  
写真はロンドン五輪の  
メインスタジアム  
大会は開閉式で建設された  
「開閉式屋根」の竣工で建設された  
その自然環境において、  
「オーガニック」も盛り込まれていた

# 総

## 大前提は持続可能性と世界基準であること

「ここで、フード・ビジョン」に関わる認証・ルールを駆け足で各関係者にまとめていただいたが、それらを整理すると、以下のようなもの。

まず、「フード・ビジョン」という食料調達以前に、P24で紹介した「ISO2012」という、五輪全体を運営する上で国際規格マネジメントが、ロンドン以降はスタンダードとなり、東京大会でも大前提となる。その規格は、記事内で語られた通り「持続可能性」が最大のテーマであり、すべての運営にその価値

が盛り込まれる必要がある。その土台の一部となる考え方が、P34のエンカルであり、P35のフェアトレードである。

そしてこの「ISO2012」に沿った食料調達を考えた際、当然ながら国際的に通用し、かつ持続可能性を実現する調達基準でなくてはならない。そこで食の各ジャンルで世界基準となりうる認証・ルールとして、MSC、ASC、GlobalG.A.P.、そしてオーガニック、有機JAS認証が採用されたわけだ。各専門家が語る内容を見れば、その「持続可能性」「世界基準」に足る力があることは、十分に理解いただけたであろう。

## 実現性も考慮した日本版食料調達を

ただ一方で、これらの基準を満たしたもののみで、東京大会の「フード・

## 時流では国際的にフード・ビジョンを目指すべきだが、実現可能なレベル設定も重要。そこでオーガニックの役割は大きい

「ビジョン」を形成することが難しいのも、各記事でわかったはずだ。有機JASをはじめ、MSC、ASC、GlobalG.A.P.、いずれも日本国内での普及はまだ途上であり、五輪規模の食料を安定的に調達するには不十分と言わざるをえない。では海外産で補えばいいかといえは、「ISO2012」には国内調達の優先も明記されている。こうした「実現性」との両立も、「ISO2012」では重要なポイントであるのも、記事を読めばおわかりである。

ロンドン大会では、農産物の現実的な基準として「レッドフラクター」が採用された。日本でもそれにならうような採用基準が必要となるだろうが、一定の国際的な信頼性も考慮すると、現状の国内認証やルールでは、該当するものは見当たらない。農産物に限らずあらゆる点で、2020年に向けて現実的な認証システムの構築が求められるだろう。それは結果的に、P36で語られた「日本版フード・ビジョン」の重要な骨格を担うことになるはずだ。

そのなかで、農産物に関してはオーガニックが担う役割は極めて大きいと、OVJでは考える。オーガニックという、誰もが納得する世界基準を目指すプロセスも含む認証が存在すれば、2020年にはオーガニックに類する「持続可能性」「世界基準」が達成でき、かつ将来的にはオーガニックが拡大する一そんな五輪限定認証のようなシステムを提唱していくべきだと、OVJでは考えるが、いかがだろうか。

# 括

## 特集2 2020東京オリンピック&パラリンピックの食料調達基準

ORGANIC VISION VOLUME 2  
SPECIAL FEATURE

# フード・ビジョンで

前号の特集で「フード・ビジョン」により近年のオリンピックとオーガニックがつながることを記した。ただ、オーガニック以外にも「フード・ビジョン」に深く関わる5年5年分規格認証機関が存在する。今号ではオーガニックを含むそれぞれの要素について、専門家に寄っていただいた5冊後のロンドンを知らずの意見を、際をえつつ、来る2020年の「フード・ビジョン」のありかを探る機会を構築してみた。

# 覚えておくべき



# 7つのこと

## CONTENTS

- ISO20121 (BSI グループジャパン)
- MSC/海洋管理協議会 (MSC 日本事務所)
- ASC/水産養殖管理協議会 (WWF ジャパン)
- GLOBALG.A.P. (GLOBAL G.A.P 協議会)
- オーガニック 有機 JAS (日本オーガニック&ナチュラルフーズ協会/JONA)
- エシカル (日本エシカル推進協議会)
- フェアトレード (フェアトレード・ラベル・ジャパン)
- 五輪後のロンドンを視察したNPOが期待する2020年の「フード・ビジョン」(持続可能な社会をつくる元気ネット)

# 予告

もう待てない！勝手に  
日本版フードビジョンを考える

オーガニック農産物の生産量調査を検証

事前キャンプ地こそ  
オーガニックを取り入れよう。



“オリンピックレガシーは食育 & オーガニック！”